

学校運営協議会 会議実施報告書

1 会議名 岐阜総合学園高等学校学校運営協議会 (第3回)

2 開催日時 令和3年2月26日(金)

3 開催場所 書面開催

4 参加者 委員 遠山 武美 須賀東地区自治会長
神谷 政人 中部地域づくり協会
熊田 ますみ 平成医療短期大学教授
長屋 恭一 同窓会長
木下 ひかる 同窓会常任理事
廣瀬 孝子 P T A役員(副会長)
高田 裕子 P T A役員(会計)

学校側 野田 正明 校長
鷺野 輝男 事務部長
下平 義広 教頭
加藤 昌宏 教頭
岡田 心一 教務主任
片桐 一色 進路指導主事
郷 龍雄 生徒指導主事

5 会議の概要

(1) 教務部の取組等に係る意見・感想・提案等

- ・コロナ禍で対面の機会が減少したとしても、生徒一人一人の状況を把握し、生徒に寄り添った支援を進めることが重要である。
- ・「総合的な探究の時間」では、生徒が主体的に活動し、教員は助言者として後方支援をお願いしたい。
- ・新しい学習指導要領に沿ったカリキュラムの骨子が出来たとのことだが、次世代を生きる子どもたちのために特色あるカリキュラム編成を期待する。
- ・「ふるさと愛」を持つことは大切である。地元を知り、学び、発見するという協働的な活動から喜びを感じられる教育へつなげてほしい。
- ・中学生等への情報発信として、実際に学校見学をしているかのような「動画」を作成し、ホームページ等を活用してPR出来るとよい。
 - 中学生等へ動画を活用したPRも実施しているが、ホームページには掲載していない。今後、動画内容を精選し、ホームページを通じたPRも検討したい。
- ・各種の課題について早期対応し、充実した教育活動をお願いしたい。
- ・コロナ禍において、ICT機器の活用が十分できたことは評価できる。
- ・総合学科ならではの科目設定による特色ある教育は、進学・就職につながる良い取組である。
- ・ホームページは本校をPRするのに便利なツールである。更新回数が増えたことは評価できる。
- ・7限目に「総合的な探究の時間」が行われることで、部活動に影響があるのではないか。授業を6限までに収めて、部活動時間を確保することはできないか。
 - 6限までに収めるためには、教科の授業時間を削減する必要がある。教育課程委員会でも検討したが、来年度は現行どおり「総合的な探究の時間」を7限目に設定することになった。

来年度以降も継続して検討していきたい。

- ・生徒による授業評価で、昨年度より「そう思う」と回答した数値が下がった。その一要因が、年度当初に対面授業ができなかったことだと考えられるので、今後オンラインによる授業支援を行う際には、内容や進め方を工夫して取り組んでいただきたい。
- ・ICT機器の活用により、コロナ禍でも安心して授業が受けられる体制が取られるだけでなく、学力アップにもつながることを期待したい。
- ・生徒の思い出に残る、大切な修学旅行を来年度に延期することは、とても良いと思う。
- ・オンラインによる学習支援で、各家庭のWi-Fi環境等が整っていない状況はなかったか。
→ 全家庭のインターネット接続環境を調査したうえで実施した。県からモバイルルーターが数台配付されているので、必要に応じて家庭に貸し出すことも可能である。

(2) 進路指導部の取組等に係る意見・感想・提案等

- ・人の話を理解し、自分の意見を正しく伝えられる力が重要である。生徒のコミュニケーション能力の育成をお願いしたい。
- ・進路指導の目標「行きたい岐阜総合学園高校、自分が輝ける、生きがいが持てる岐阜総合学園高校」が具体的でわかりやすく、とても良いと思う。
- ・コロナ禍で、進路選択から決定までの指導に苦難はあったものの、進路指導目標の達成に向けた教員の指導と生徒の柔軟な対応により、進路実現がなされている。より一層の指導の充実をお願いしたい。
- ・次年度に向けた課題として、今後もコロナ禍等で経済が安定しないことが予想されるので、企業倒産や家庭の経済面等を考慮した進路指導が大切になる。早期対応をお願いしたい。
- ・コロナ禍でも学力の著しい低下は見られず、学習意欲や学力の向上が見られたことは評価できる。生徒の変容を検証いただき、今後の指導に活かしていただきたい。
- ・資料に「授業時の対話や協働的な学習機会の確保が必要である」とあるが、日頃の授業において指導の充実を願う。
- ・今後の社会情勢について一早く情報をキャッチし、それを指導に活かして、将来設計を進めさせる必要がある。
- ・外部模試が進学指導に活用されている割合が低い。年2回休日に実施されているが、部活動への影響を考え、希望者のみが模試を受験することを検討願いたい。
- ・学びについて、入試について、キャリア教育について、それぞれに分析・実行・評価・改善があり、とても良い流れである。
- ・コロナ禍が続くことで進学や就職への取組が変化すると、教員の負担も大きくなるが頑張っていたいただきたい。
- ・生徒が自分の進路を決定するにあたり、学費や生活費等の金銭面、授業内容、卒業後の進路等、進学先の理解を深める時間をしっかり確保する必要がある。
- ・自分の子どもは、教員に相談し、納得して進学先を決めることができた。相談しやすい環境であったことに感謝したい。

(3) 生徒指導部の取組等に係る意見・感想・提案等

- ・年度当初の一斉休業中も、担任を中心に心のケアをしてもらったことが良かった。
- ・資料データから特に問題は見られないが、今までとは違う生活様式を続けているので、今後も注視し、見守る必要がある。
- ・総合学科は選択授業が多く、落ち着いて過ごせるHR教室がない。友人関係も希薄になりやすいので、「落ち着ける場所」と「相談できる場所」の確保をお願いしたい。

- ・遅刻者の数が多いのが気になる。社会人になったら許されないことなので、保護者と連携して指導をお願いしたい。
- ・心のケアを重視し、アンケート回数を増やして対応された。今後も継続して生徒に寄り添っていただきたい。
- ・携帯電話（スマホ）を使用する状況や方法について、生徒自身が考えて行動できるようなマナー指導が必要である。
- ・私の子供たちは本校で楽しい学校生活を送り卒業したが、少し厳しめの指導も社会に出たとき役立っているようである。
- ・心のケアが必要な生徒には、専門の方（スクールカウンセラー）が対応しているのか。
→ 本校の教育相談担当等の職員とスクールカウンセラーで対応している。

（４）本校の教育活動全般、地域連携協力の在り方や学校への期待、質問、提案等

- ・ボランティア活動、社会貢献活動などを通して、社会人としての在り方を学ぶことも重要である。身近なところから社会との接点を見出し、学びを深めてほしい。
- ・素直で挨拶がよくでき、積極的に取り組める生徒が多いと思うが、より一層生きる力と個を伸ばす教育をお願いしたい。
- ・本校が進路指導の目標にあるように、中学生や在校生から「行きたい学校」「成長できる学校」「自分が輝ける学校」「生きがいが持てる学校」と、保護者から「子どもを安心して送り出せる学校」と、そして卒業生から「誇りの持てる学校」と言われるような特色ある学校づくりに尽力願いたい。
- ・元教育者（防災教育、建設教育等）として、また本校卒業生としてお手伝いできることがあれば協力したい。
- ・部活動の意義について今一度全職員で考えていただきたい。部活動を活性化させることで人間力を高めることができると考えている。本校の強みは何であるかを打ち出してほしい。
- ・学校を訪問した際には、しっかり挨拶してくれる生徒が多い。とても良い学校だと思う。

6 会議のまとめ

緊急事態宣言発令中であるため、第3回学校運営協議会は書面開催とした。委員の皆様からは、本校の教育活動に対して概ね好意的なご意見をいただいた。一方、本校に課せられた使命や本校の強みをより打ち出していくことも求められた。いただいたご意見を真摯に受け止め、さらに魅力ある学校運営に励みたい。